

# 2009年度上期 PCサーバ国内出荷調査

ノークリサーチ(本社東京都足立区:代表 伊嶋謙二)では、2009年度上期の国内PCサーバの出荷状況を調査してその結果を発表している。2009年度全体の予測も併せて発表している。

## <09年度上期PCサーバ市場のポイント>

09年度上期PCサーバ市場は、過去最大の二桁のマイナス成長

- 台数は対前年比15.8%ダウンで、225,671台

- 金額市場は14.6%ダウンだが、台数より減少幅は軽微。低価格化に歯止め

デフレ経済、仮想化、統合化が台数市場に不活性効果を与えた

シェアはNECのトップ変わらず。富士通がデルをかわして3番手に

09年度全体ではマイナス成長も、下期には底離れの見通し

- 09年度は477,371台。下期は需要が戻る兆し、ただし台数より高機能へ

対象期間 : (2009年度上期) 2009年4月～2009年9月

(2009年度) 2009年4月～2010年3月

対象メーカー : 電子情報技術産業協会 (JEITA) 自主統計参加及び未参加メーカー

日本電気、富士通、デル、日本IBM、日本HP、日立製作所、東芝、三菱電機など

対象機種 : 電子情報技術産業協会 (JEITA) 定義に準ずる

調査方法 : 当該メーカーに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

調査時期 : 2009年11月

## [2009年度上期出荷状況]

- 台数は対前年比15.8%ダウンで、225,671台 -

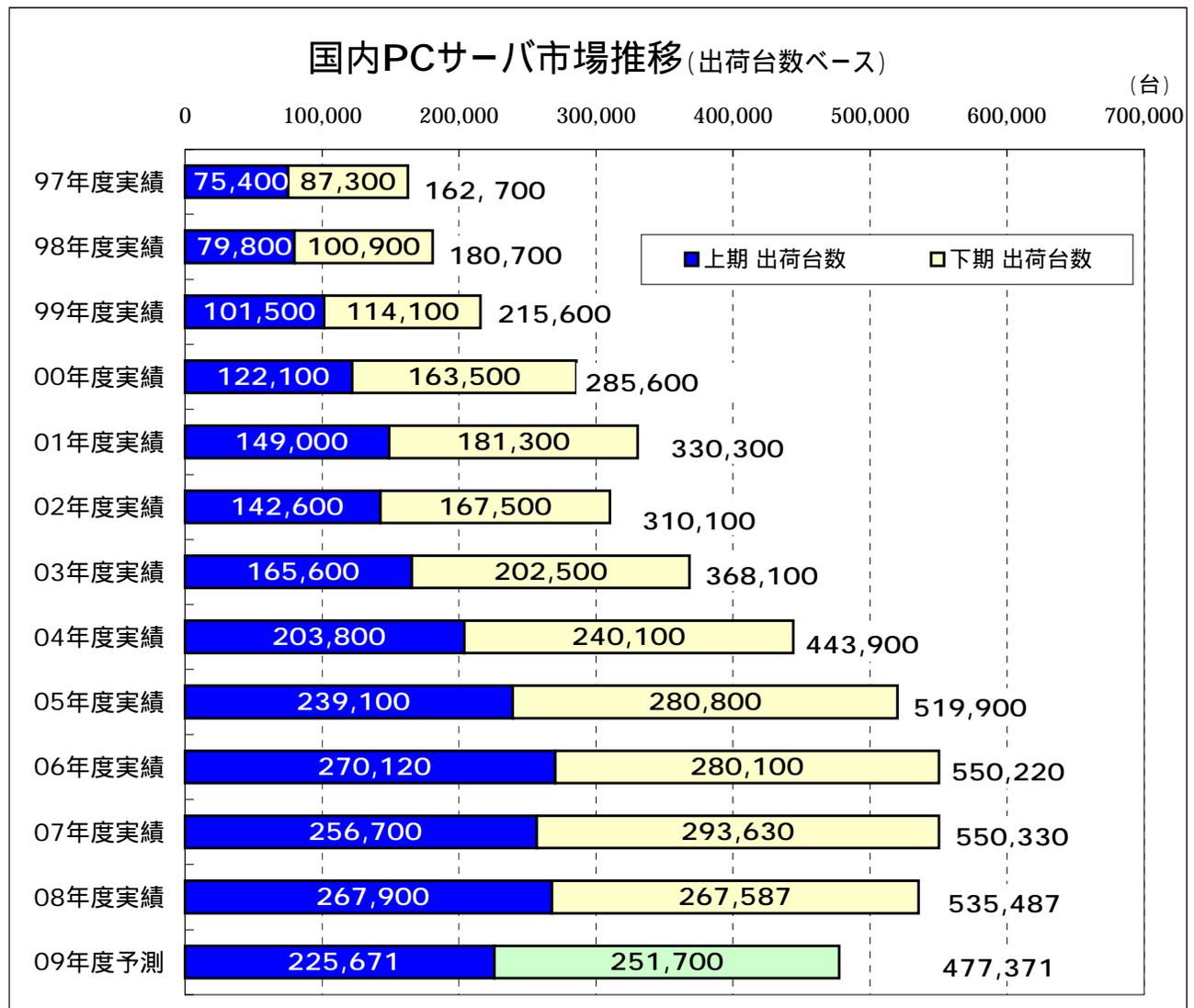
09年度上期は225,671台と対前年比15.8%ダウンの大幅な減少となった。08年度から続く市況の低迷は09年度上期も大きくPCサーバ市場に影響を与えている。企業の規模や業種に関わらずIT投資意欲は減退したままだった。ただしネット系企業におけるサーバ需要は堅調で、ここ数年間高成長を維持している。また医療分野、金融業などでの需要は比較的堅調であった。しかし深刻なのが製造業や流通業などの一般民需で、大きな市況の閉塞感がサーバ市場に影響を及ぼしている。

金額市場では、タワー型の低価格モデルから高機能モデルやラック型へのシフトが進み、平均単価は下げ止まり傾向をみせた。台数に比べ減少幅は軽微で、対前年比85.6%で1231億円となっている。

フォームファクターではタワー型の大きな減少が目立っており、ラック型、ブレード型への集約・統合への需要が利いている。特にラック型はデータセンターやサーバールームへの需要が増加して、全体の50.2%を占めている。またブレード型は全体のサーバの割合は12.8%までになっており、伸び率でも106.0%とプラス成長になっている。大きくはないが着実な成長ベクトルに入っている。

## 国内PCサーバ総出荷台数推移 / 予測 (97年度～08年度実績、09年度下期予測)

	上期		下期		合計	
	出荷台数	前年同期比	出荷台数	前年同期比	出荷台数	前年比
97年度実績	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
98年度実績	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
99年度実績	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
00年度実績	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
01年度実績	149,000	122.0%	181,300	110.9%	330,300	115.7%
02年度実績	142,600	95.7%	167,500	92.4%	310,100	93.9%
03年度実績	165,600	116.1%	202,500	120.9%	368,100	118.7%
04年度実績	203,800	123.1%	240,100	118.6%	443,900	120.6%
05年度実績	239,100	117.3%	280,800	117.0%	519,900	117.1%
06年度実績	270,120	113.0%	280,100	99.8%	550,220	105.8%
07年度実績	256,700	95.0%	293,630	104.8%	550,330	100.0%
08年度実績	267,900	104.4%	267,587	91.1%	535,487	97.3%
09年度予測	225,671	84.2%	251,700	94.1%	477,371	89.1%



## [2009年度上期メーカーシェア]

## —NECのトップ変わらず。富士通がデルをかわして3番手に—

NECは前年同期比でシェアを1.2ポイント上げて、26.9%で1位を保った。ただし前年比88.2%とマイナスだった。製品ラインアップと販売チャネルなど、官公庁・自治体から流通業の大手案件やITサービス業向けのデータセンター需要、そして医療関係などの動きの良い特定業界向けに幅広いチャネルを使って拡販することで、実績を残している。

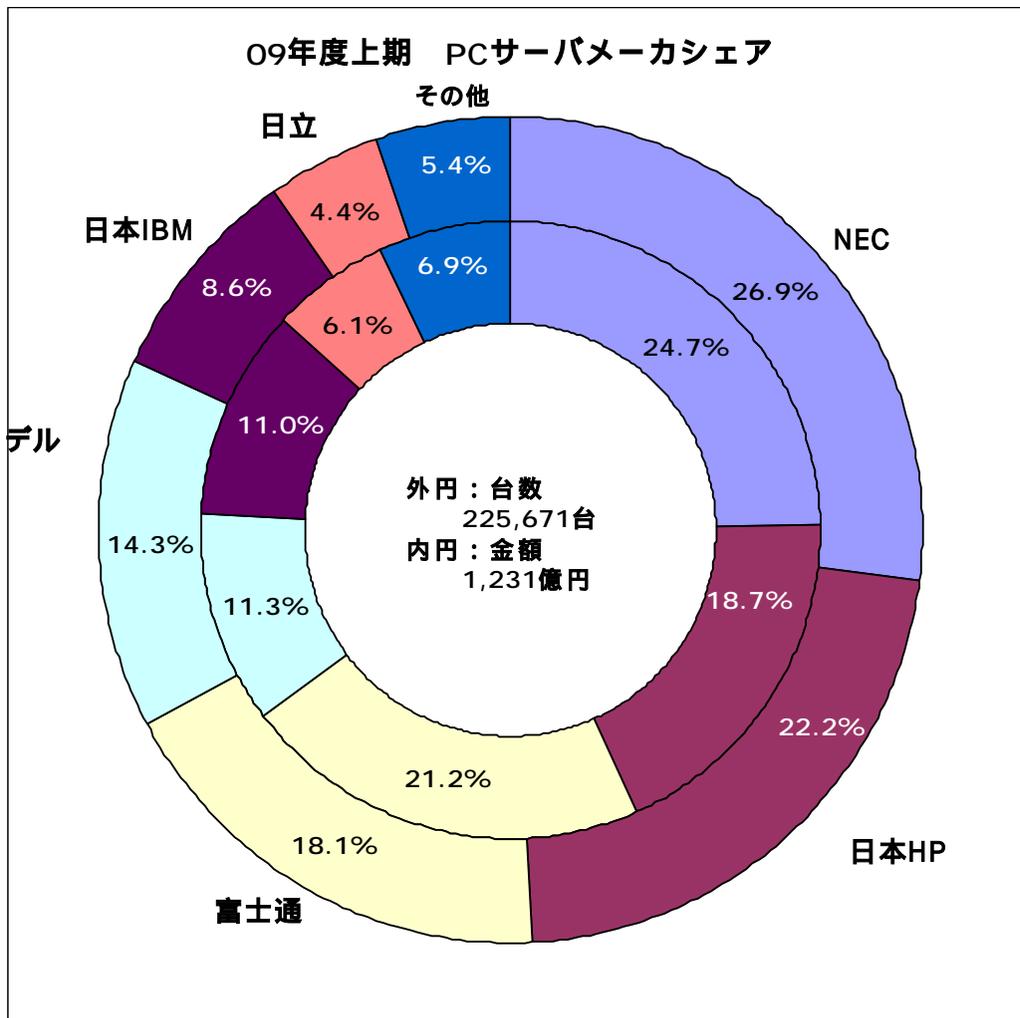
2番手のHPは、ラック型、ブレード型は上期もトップシェアであるが、全体では22.2%で、NECに対して逆にポイントで差をつけられた。実績では81.1%で前年を大きく下回った。HPは上期前半に価格訴求のキャンペーンなどを手控えたこともあり、台数での実績が落ち込んだ。

富士通がシェア18.1%で、デルを抜いて3位に浮上した。対前年比103.2%で唯一プラスになった。特に目立ったのが全社一丸となったサーバの販売体制の強化だ。それに製品の品揃えと価格の相場感への対応だ。積極的な施策で上昇の動きを見せている。低価格サーバやチャネル見直しなどで、中堅・中小企業への深耕を展開している。官公庁への大口案件も実績を伸ばした要因にもなっている。

デルは富士通に抜かれ4番手、14.3%のシェアだ。オープン系のSI企業が停滞する中堅・中小企業需要を拡大することが出来なかった。また目立った大口案件も無かったこともあり、対前年比65.9%と大きく下回った。

IBMは製造業を中心としたエンタープライズ企業での不振の影響を色濃く受けて、やはり前年対比73.5%で大きく下回った。大企業、金融・証券、ネット系企業への直販スタイルの展開で、上位4社に比べ中堅・中小企業への展開では販売チャネルの差が付き始めている。

日立も対前年比88.3%と実績を落としている。直販による大企業やグループ関連でのブレード型やラック型で展開しているが、シェアは4.4%と、上位グループとは大きく差をつけられている。特にタワー型の販売ルートや展開については、積極的な拡販の施策を打っていない。今後は、ブレード型を中心に据えた大手企業への徹底した直販主体のソリューション販売に徹することになる。



## [2009年度の市場展望]

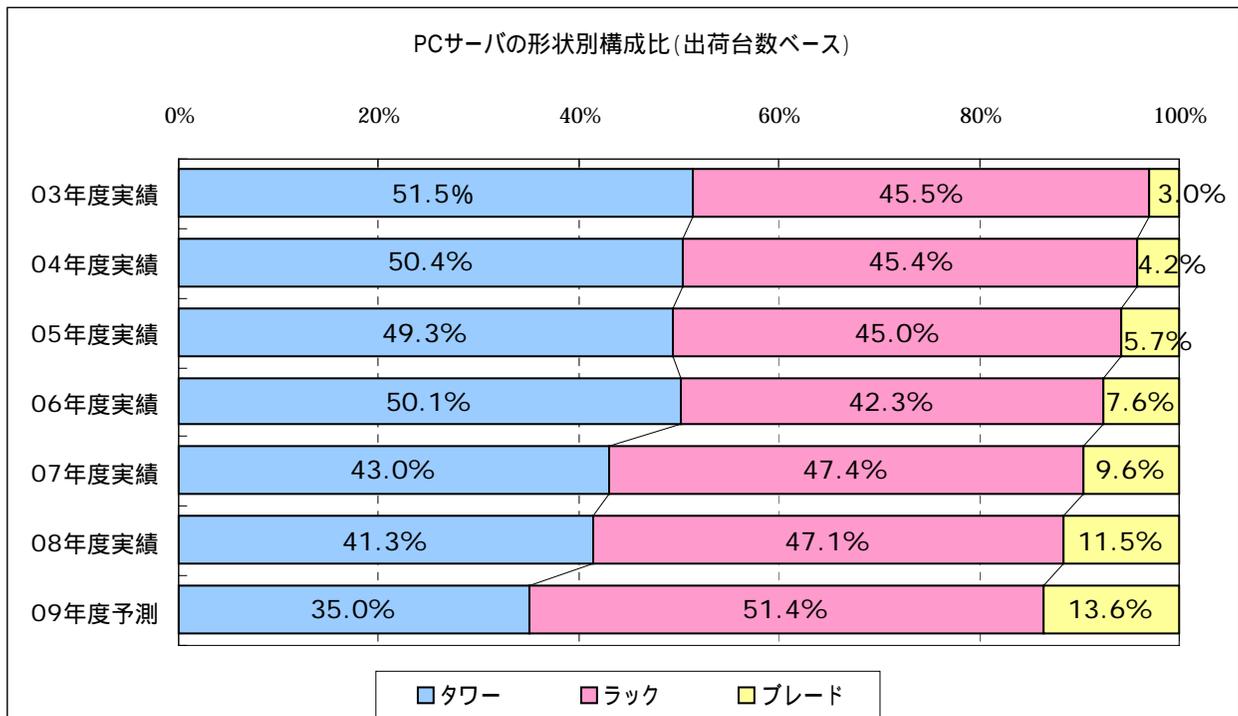
## - 09年度全体ではマイナス成長も、下期には底離れの見通し -

下期は需要が戻る兆しを見せ始めている。ただし台数より高機能サーバへと需要はシフトしつつある。09年度トータルは477,371台で、対前年度89.1%のマイナス成長の見通しだ。今後台数市場としてのピークを迎えることは難しい。一般企業でのサーバ需要については、デフレ経済環境での投資意欲の減退が新規需要に影響を与えている。また統合・集約、仮想化、そしてSaaS、クラウドによるサービス化などの趨勢は、一般企業が今後サーバを積極的に購入する動きを活性化しない要因となっている。

ただし経済状況の好転のサインが明確な数値となって表れているわけではないが、下期に入ってからはずっくりだが完全凍結から「縮小一段落による再投資へ」の動きが大企業を中心として見られるようになってきている。国策による景気対策予算なども下期には上昇への刺激となる。また官公庁・自治体での確定案件が支えになってくる。

一方市場での統合・集約化、仮想化をキーテクノロジーとしたIT構築機運は一層高まってくるだろう。SaaS、クラウドなどの新たなITインフラ作りも進んでいるため、ITサービス提供側のサーバ需要は確実に見込める。逆にデータセンターなどのインフラ側へのサーバは今後はさらに増加することは間違いない。

中堅・中小企業需要は、大手企業の戻りを受けてから動き出すことが多いことから、サーバ需要を含むIT投資の回復は来年度以降となりそうだ。



当調査データに関するお問い合わせ

**NORK RESEARCH**

株式会社 ノークリサーチ 担当：伊嶋謙二  
 東京都足立区千住1-4-1東京芸術センター1705  
 TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692  
 inform@norkresearch.co.jp  
 www.norkresearch.co.jp